

# 9. 令和7年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告書

## 埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内 秀雄

### まとめ

1. 令和7年度に埼玉医科大学病院が実施したてんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかん普及啓発事業、後援事業について報告する。
2. てんかん相談体制では、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」で4名のてんかん診療支援コーディネーターによる総件数214件の電話相談を行った。また、日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回のインターネットによる公開相談会を開催した。
3. 治療体制としては、「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の年度改訂を行い、令和7年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開する予定である。
4. 院内のてんかん研修では、てんかんセンターカンファレンスを計11回、特別講演会を1回を実施した。また、院外でのてんかん研修として、てんかん診療コーディネーター4名が全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回参加した。
5. 一般市民を対象としたてんかん啓発事業として、市民公開講座や難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、パープルデーの開催を各1回開催した。YouTubeにおいて埼玉医科大学病院てんかんセンターチャンネル開設し啓発事業の動画公開を行った。さらに、Instagramを新規開設し啓発事業の案内を開始した。埼玉県内の学校教員・校医のためのてんかん教育講座を1回開催した。ニューズレターを発刊・刊行した。以上の一般市民を対象としたてんかん啓発事業は埼玉医科大学病院ウェブサイト・埼玉県ウェブサイトから公開掲示した。

### 1. 緒言

平成30年(2018年)11月1日に埼玉医科大学病院は埼玉県てんかん地域連携体制整備事業埼玉県てんかん診療拠点機関に指定された。実務は同院てんかんセンターが行い、院内運営委員会(年6回開催)によって運営されている。当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、以下の基本方針と持っている。

- 1) 患者さんの幸せのために安心して質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する
- 2) 高度なてんかん医療を提供する地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う
- 3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努める

これらの方針に基づき、令和7年度に本院が実施した埼玉県てんかん地域連携体制整備事業を報告する。

### 2. 令和7年度事業計画

令和7年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会(以下、協議会)において、山内秀雄が協議会長に就任し、議長を務めた。協議会の委員は表1に示される通りである。令和7年4月15日に開催された協議会では、令和6年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業の報告が行われた後、令和7年度の事業計画案が提案され審議された。提案内容の概要は以下の通り。

- 1) てんかん相談体制として、「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に基づき、てんかん電話相談を実施すること、またウェブ上で公開てんかん相談会を3回行うこと。
- 2) てんかん治療体制として、令和7年度版「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の作成と薬剤抵抗性てんかんに対する先進的てんかん診療の促進と整備を目的とする講演会開催。
- 3) てんかん研修の実施として、拠点施設内でのてんかんセンターカンファレンス症例検討会(毎月1回)開催、施設外でのてんかん診療コーディネーター研修会(年2回)への参加。

表1. 令和7年度埼玉県てんかん治療医療連携協議会委員・事務局一覧

選出分野	氏名	所属及び役職名
てんかん診療拠点機関	山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
	渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科准教授
	中澤 望美	埼玉医科大学病院 てんかんセンター てんかん診療支援コーディネーター
てんかん治療を専門的に行っている他院の医師	落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
	菊池 健二郎	埼玉県立小児医療センター 神経科
	中本 英俊	TMGあさか医療センター 脳神経外科部長・てんかんセンター長
	相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
県職員	加藤 孝之	埼玉県保健医療部 健康政策局長
	鈴木 久美子	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長
精神保健福祉センター、保健所	坂田 増弘	埼玉県立精神保健福祉センター センター長
	丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
てんかん患者及びそのご家族	福田 守	日本てんかん協会埼玉支部
	高山 久雄	てんかん患者さんのご家族、日本てんかん協会埼玉支部
その他、適宜、てんかん対策を進める上で、必要な者	丸木 雄一	埼玉県医師会 副会長、埼玉精神神経センター 理事長
	赤羽 典子	埼玉県保健医療部疾病対策課 副課長
	外園 孝之	埼玉県保健医療部疾病対策課 主幹
	山崎 彰彦	埼玉県保健医療部疾病対策課 主任
	濱谷 翼	埼玉県保健医療部疾病対策課 主査
埼玉医科大学病院(事務局)	大屋 拓巳	埼玉県保健医療部疾病対策課 主事
	藤田 美由紀	埼玉医科大学病院 医務部
	廣田 開	埼玉医科大学病院 医務部

4) てんかん普及啓発事業として、てんかんセンターカンファレンス特別講演会（年1回）、てんかん市民公開講座（年1回）の開催、学校教職員・校医を対象としたてんかん教育講演の実施、そしててんかんセンター・難病センター合同啓発イベントとしてパネルポスター展示会の開催と記念講演会開催。パープルデーキャンペーン開催、埼玉県ウェブサイト、埼玉医科大学病院・同院てんかんセンター、Twitter、Facebook、Instagramなどからてんかん相談・啓発事業の案内と報告、YouTube専用チャンネルからの講演会動画配信、ニュースレター発刊・刊行、てんかん診療連携のための情報交流企画イベント、小児慢性特定疾患・指定難病を併発するてんかんの支援と啓発のための講演・交流会、等が提案された。  
上記の提案内容は審議され、承認された。

### 3. 実施内容

#### 1) てんかん相談体制

①埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、4名のてんかん診療コーディネーター（中澤望美、佐藤祐子、加藤加奈子、五月女恵）による総件数214件の電話相談を行った。相談内容としては、治療薬の調整に関する最も多く91件であり、次いで検査・疾患に関するものが113件、妊娠などに関するものが4件、その他7件であった。

②インターネットによるてんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回開催した（令和6年6月21日、9月27日、12月13日）。相談役は埼玉医科大学病院小児科山内秀雄・松本浩、精神科渡邊さつき、脳神経外科平田幸子・高島和彦、大宮西口メンタルクリニック相川博、埼玉県立小児医療センター菊池健二郎が担当した。

#### 2) てんかん治療体制

①埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和7年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開予定である。

②薬剤抵抗性てんかんに対する先進的てんかん診療の促進と整備を目的とする講演会として令和7年7月30日にてんかん診療応援ウェビナーを開催した。講演内容は「抗てんかん発作薬の使い分け」であり講演者として平田幸子（脳神経外科）が担当した

#### 3) てんかん研修の実施

①医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生を対象とするてんかんセンターカンファレンスを計11回と特別講演会を1回開催した（表2）。オーガナイザーは松本浩（小児科）、事務担当は颯佐かおり（小児科）が担当した。

表2

開催日	担当部署	担当者	検討症例
2025年4月11日	脳神経内科	藤田宗吾	脳動静脈奇形によるてんかん発作
2025年5月9日	精神神経科	木村理沙	発作の減少とともに抑うつ気分が改善した側頭葉てんかんの1例
2025年6月13日	小児科	寺西宏美	カルバマゼピンが著効した前頭葉てんかんの1例
2025年7月11日	脳神経外科	平田幸子	右前頭部皮質形成異常切除後の発作再発例に対する追加手術の検討
2025年8月8日	脳波室	安田喜内、川先生	教えて！「脳波判読に難渋した例、苦慮した例」
2025年9月12日	精神神経科	渡邊さつき	両側側頭葉に高信号域を認める外科治療後の難治性側頭葉てんかんの1例
2025年10月10日	脳神経外科	高島和彦	中枢性呼吸障害を呈したてんかん重積の一例
2025年11月14日	救急科	内藤友亮	アトモキセチン過量摂取による重篤な神経毒性・心毒性を呈した一例
2025年12月12日	脳神経外科	平田幸子	難治頻回部分発作重積型急性脳炎後の薬剤抵抗性てんかんの一例
2026年1月9日	小児科	寺西宏美	ミオクロニー欠神てんかんの1例
2026年2月13日	第8回特別講演（脳神経科）	山口智子（脳神経科）	東京女子医科大学 久保田 有一「AIで変わるてんかん診療の未来」
2026年3月13日	看護部	中澤望	

②院外でのてんかん研修としててんかん診療支援コーディネーター担当者（佐藤祐子、中澤望美、加藤加奈子、早乙女恵）が令和7年度全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回（令和7年7月27日、12月21日）参加し修了証が授与された。

#### 4) てんかん啓発事業

1. 一般市民を対象とした啓発事業として、i) てんかん市民公開講座、ii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、iii) パープルデー、iv) てんかん啓発のためのYouTubeチャンネル開設を行い動画配信を行った。

i) てんかん市民公開講座は令和6年5月18日に開催し、渡邊さつき、寺西宏美、高島和彦（埼玉医科大学

病院神経精神科、小児科、脳神経外科)による講演が行われた。

ii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベントでは埼玉医科大学病院内てんかんセンターおよび同難病センター(埼玉県難病診療連携拠点病院)合同企画として「難治てんかん・希少難病疾患に関するポスター展示会」を令和8年2月9日～28日に開催した。開催期間は毎年2月の第2月曜日が世界てんかんの日に指定され、また2月末日が希少難病の日であることが開催期間の主な理由である。ASrid (<https://asrid.org/>)より提供される希少難病に関するポスターパネル、てんかんセンターから難治てんかんに関するポスターパネル、難病センターから希少難病に関するパネルの院内提示を行った。さらに同企画記念講演会として「困ったときの“道しるべ”～埼玉医大難病センター・てんかんセンターができること～」というテーマで埼玉医科大学病院医師ら4人の演者による講演会が令和8年3月21日に開催された。講演内容と演者は以下の通りである。

①「難病センターとは？」門野夕峰(整形外科)、②「てんかんセンターとは？」山内秀雄(小児科)、③「希少疾患の遺伝カウンセリング」四元淳子(ゲノム医療科)、④「てんかんに伴う精神症状～うつ、不安、心因性発作など～」高島和彦(脳神経外科)。

iv) パープルデーは令和7年3月26日～29日に埼玉医科大学病院てんかんセンター外来に専用ブースを設置して開催され、てんかん啓発ポスター掲示、医師看護師をはじめとするてんかんセンタースタッフの紫色Tシャツ・パープルデーピンバッジの着用、記念クッキーの配布などを行った。

v) てんかん啓発のためのYouTube「埼玉医科大学病院てんかんセンターちゃんねる」において本事業てんかん市民公開講座で行った講演記録から10分から15分程度に講演動画を編集作成し配信を行った。配信前には病院内で第三者委員会による個人情報保護に留意した厳重な検閲を行った。本年度分として年度末までに合計6本の新たな動画投稿を行い、合計13本の動画が埼玉医科大学病院ウェブサイトより配信される予定である。

2. てんかんに携わる職種対象とする啓発事業として県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会「現場で役立つ小児てんかんの知識～発作時の口腔用液プログラムの使用方法を中心に～」を埼玉県教育委員会共催、埼玉県医師会・埼玉県医師会学校医会後援で令和7年10月22日に開催した。参加者は172名であり、多数の質問を受け、終了後アンケートでは88%から「とても参考になった」との回答、現場に即した安心感につながる講演であったとの評価を受けた。

#### 4) まとめ

令和7年事業計画で企画した内容をほぼ達成することができた。また予定されていた企画以外に、埼玉県内保健所との共催で小児慢性疾患・難治てんかんに焦点を当てた啓発事業、埼玉県学校保健会の企画でてんかんに携わる教職員に対するてんかん啓発のための教育動画を作成した。てんかん啓発には従来のような対面式の啓発活動に加え、YouTube専用チャンネルからの講演の動画配信、Instagramの開設などのITを利用した事業を行うことがますます多くなった。来年度も引き続きそれぞれの優れた点を考慮しながら、埼玉県内におけるてんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発をさらに進める予定である。